

1章 正の数・負の数 学習プリント①

1節 正の数・負の数

1 0 より小さい数

ポイント I

① … 0 より大きい数（今まで使ってきた数）

例) 2 を と表すことがあるが、同じ意味である。

これを と読み、「+」を という。

② … 0 より小さい数（初登場）

例) 0 より 2 小さい数を と表す。

これを と読み、「-」を という。



Q. 0 は正の数？負の数？⇒ A. _____

例題1 次の数を，正の符号，負の符号を使って表しなさい。

(1) 0 より 14 小さい数 (2) 0 より $\frac{4}{5}$ 大きい数

(3) 0 より 0.01 大きい数 (4) 0 より $\frac{7}{8}$ 小さい数

ポイント II

…， -3， -2， -1， 0， +1， +2， +3， …

正の整数のことを ともいう。

※ 0 は に含まれるが， には含まれない。

人や物の数を数えるとき、自然と使う数だからと覚えればいいか

例題2 下の数の中から，次の数を選びなさい。

-1 ， $+0.2$ ， $+6$ ， $-\frac{2}{3}$ ， 0 ， 2 ， -3.7

(1) 負の数

(2) 整数

(3) 自然数

1章 正の数・負の数 学習プリント①解答

1節 正の数・負の数

1 0 より小さい数

ポイント I

① **正の数** … 0 より大きい数 (今まで使ってきた数)

「かず」ではなく、
「すう」と読む。

例) 2 を **+2** と表すことがあるが、同じ意味である。

これを **プラス2** と読み、「+」を **正の符号** という。

② **負の数** … 0 より小さい数 (初登場)

例) 0 より 2 小さい数を **-2** と表す。

これを **マイナス2** と読み、「-」を **負の符号** という。



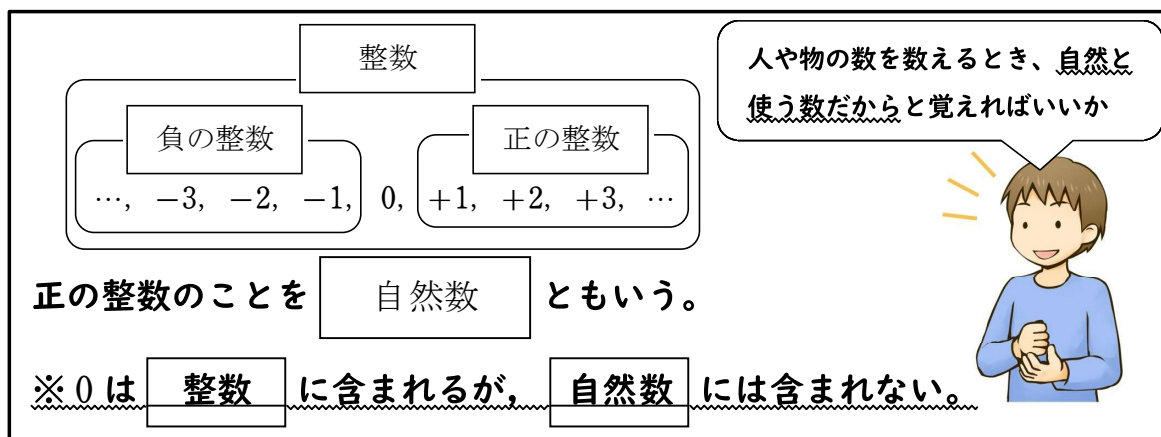
正の数・負の数を攻略しよう

Q. 0 は正の数? 負の数? ⇒ A. 正の数でも負の数でもない

例題1

【解答】 (1) -14 (2) $+\frac{4}{5}$ (3) $+0.01$ (4) $-\frac{7}{8}$

ポイント II



例題2

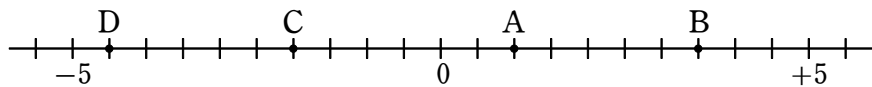
【解答】 (1) -1 , $-\frac{2}{3}$, -3.7 (2) -1 , $+6$, 0 , 2 (3) $+6$, 2

1章 正の数・負の数学習プリント②

② 正の数・負の数で量を表すこと

例題 下の数直線で、点 A ～ D の表す数をいいなさい。

ヒント：1目盛いくつ??



A:

B:

C:

D:

小学校の

ときは、

左端が

0 だったね！

ポイント I (反対の性質や基準との差)

①正の数・負の数は、反対の性質を表すことができる。

例) 1000 円の収入を $+1000$ 円と表すと、

500 円の支出は 円と表せる。

②正の数・負の数は、基準との差を表すことができる。

例) 高井先生は毎日 3 km のジョギングをしている。

調子良くて 5 km 走った日は、 km と表せる。

体調が優れず 2 km しか走らなかった日は、 km と表せる。



問1 次の数量を、正の符号、負の符号を使って表しなさい。

(1) 「100 円の収入」を $+100$ 円と表すとき「300 円の支出」

(2) 「1 時間前」を -1 時間と表すとき「3 時間後」

(3) 「北へ 4 km」を $+4$ km と表すとき「南へ 6 km」

問2

右の表は、4 人の生徒 A ～ D の数学のテストの得点と、クラスの平均 80 点とのちがいを示したものである。表を完成させなさい。

生徒	A	B	C	D
得点 (点)	85	82		
ちがい (点)		+2	0	-6

ポイント II (ひねくれ言葉)

「5 個少ない」を「多い」を使って表すと、 個多いとなる！

《ひねくれ言葉の作り方》

①言葉の意味を反対にする。 ②符号を反対にする。

問3 []内のことばを使って、次の数量を表しなさい。

(1) 5 大きい [小さい]

(2) 7 kg 軽い [重い]

(3) 100 m² 狭い [広い]

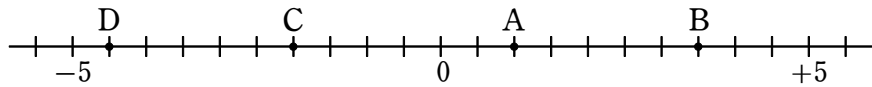
(4) 2℃ 上がる [下がる]

1章 正の数・負の数学習プリント②解答

② 正の数・負の数で量を表すこと

例題 下の数直線で、点 A ～ D の表す数をいいなさい。

ヒント：1目盛いくつ？



解答 A +1 B +3.5 C -2 D -4.5

小学校のときは、左端が0だったね！

ポイント I (反対の性質や基準との差)

①正の数・負の数は、反対の性質を表すことができる。

例) 1000 円の収入を +1000 円と表すと、

500 円の支出は -500 円と表せる。

②正の数・負の数は、基準との差を表すことができる。

例) 高井先生は毎日 3 km のジョギングをしている。

調子が良くて 5 km 走った日は、 $+2$ km と表せる。

体調が優れず 2 km しか走らなかった日は、 -1 km と表せる。



問1

解答 (1) -300 円 (2) $+3$ 時間 (3) -6 km

問2

生徒	A	B	C	D
得点 (点)	85	82	80	74
ちがい (点)	+5	+2	0	-6

ポイント II (ひねくれ言葉)

「5 個少ない」を「多い」を使って表すと、 -5 個多いとなる！

《ひねくれ言葉の作り方》

①言葉の意味を反対にする。 ②符号を反対にする。

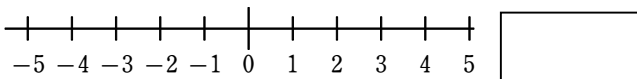
問3

解答 (1) -5 小さい (2) -7 kg 重い (3) -100 m² 広い (4) -2 °C 下がる

1章 正の数・負の数学習プリント③

③ 絶対値と数の大小

ポイントⅠ

 …数直線上での0からの距離

絶対値の簡単な求め方⇒

★正の数は、絶対値が大きいほど数が

☆負の数は、絶対値が大きいほど数が

Q. 0の絶対値は？⇒

「絶対値」と書くのは間違い。気をつけて！

それだけでいいの!?

問1 次の2つの数のうち、①大きい方の数と、②絶対値が大きい方の数をいいなさい。

(1) -6 と $+5$

①

②

(2) -10 と -12

①

②

問2 下の数の中から、次の数を選びなさい。

-3 , $+2.5$, 0 , $-\frac{5}{2}$, -0.1 , $+\frac{16}{5}$

(1) もっとも小さい数

(2) 絶対値がもっとも大きい数

(3) 絶対値がもっとも小さい数

(4) 絶対値が等しい2つの数

ポイントⅡ

数の大きさを比べるとき、を使う。

例) 2 3 , -2 -3

豆知識 「 $>$ 」…, 「 $<$ 」…と読む。

小学校のときにやったの覚えてる？

問3 次の各組の数の大小を、不等号を使って表しなさい。

(1) -3 , $+0.7$

(2) -0.01 , -0.1

(3) $-\frac{4}{5}$, $-\frac{3}{5}$

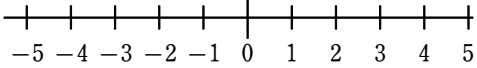
(4) $-\frac{1}{3}$, $-\frac{5}{6}$

(5) -6 , $+4$, -2 ヒント：顔文字 ($>$, $<$) 禁止

1章 正の数・負の数学習プリント③解答

③ 絶対値と数の大小

ポイントⅠ



絶対値 …数直線上での0からの距離

絶対値の簡単な求め方⇒ **符号を取るだけ**

★正の数は、絶対値が大きいほど数が **大きい**

☆負の数は、絶対値が大きいほど数が **小さい**

Q. 0の絶対値は？⇒ **0**

「絶対値」と書くのは間違い。気をつけて！

それだけでいいの！？

問1

【解答】 (1) ① +5 ② -6 (2) ① -10 ② -12

問2

【解答】 (1) -3 (2) $+\frac{16}{5}$ (3) 0 (4) +2.5 と $-\frac{5}{2}$

ポイントⅡ

数の大きさを比べるとき、**不等号**を使う。

例) $2 < 3$, $-2 > -3$

豆知識 「>」… **大なり**, 「<」… **小なり** と読む。

小学校のときにやったの覚えてる？

問3

【解答】 (1) $-3 < +0.7$ (2) $-0.01 > -0.1$ (3) $-\frac{4}{5} < -\frac{3}{5}$ (4) $-\frac{1}{3} > -\frac{5}{6}$
(5) $-6 < -2 < +4$

1章 正の数・負の数学習プリント④

2節 正の数・負の数の計算

1 正の数・負の数の加法，減法

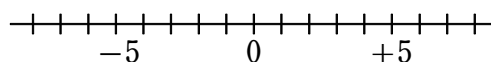
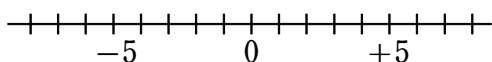
ポイント I

たし算のことを といい，その結果を という。

例題1 $(+)+(+)$ 数直線を利用し，次の計算をなさい。

(1) $(+3)+(+2)$

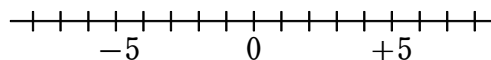
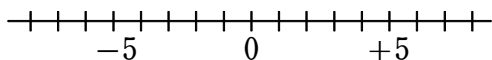
(2) $(+2)+(+5)$



例題2 $(-)+(-)$ 数直線を利用し，次の計算をなさい。

(1) $(-3)+(-5)$

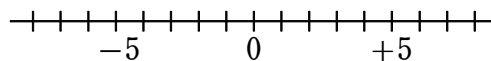
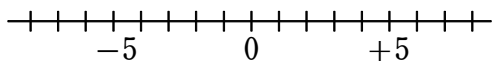
(2) $(-5)+(-1)$



例題3 $(-)+(+)$ 数直線を利用し，次の計算をなさい。

(1) $(-3)+(+2)$

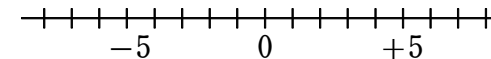
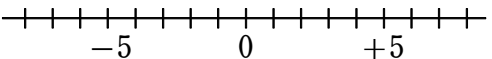
(2) $(-4)+(+7)$



例題4 $(+)+(-)$ 数直線を利用し，次の計算をなさい。

(1) $(+3)+(-6)$

(2) $(+8)+(-4)$



《わかったこと》

★正の数どうしの和は，いつも になる。

★負の数どうしの和は，いつも になる。

☆符号が異なる数の和は，絶対値の 方の符号となる。

1章 正の数・負の数学習プリント④解答

2節 正の数・負の数の計算

1 正の数・負の数の加法，減法

ポイント I

たし算のことを **加法** といい，その結果を **和** という。

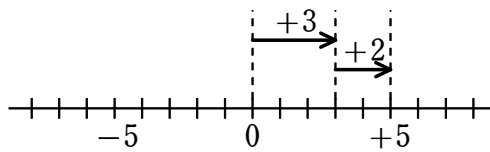
解説

「たす」＝「加える」という意味。「和」は小学校でも出てきたよね。

例題1 $(+)+(+)$

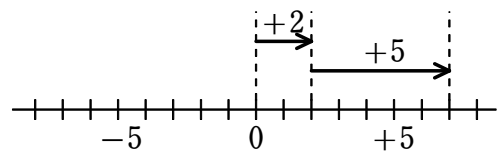
解説

(1)



上の図から $(+3) + (+2) = +5$

(2)

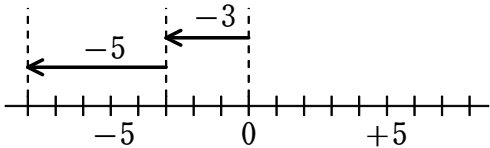


上の図から $(+2) + (+5) = +7$

例題2 $(-)+(-)$

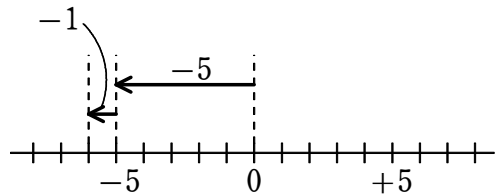
解説

(1)



上の図から $(-3) + (-5) = -8$

(2)

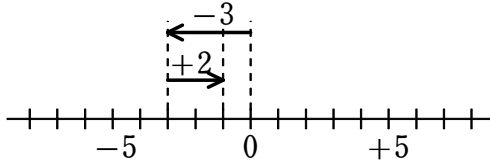


上の図から $(-5) + (-1) = -6$

例題3 $(-)+(+)$

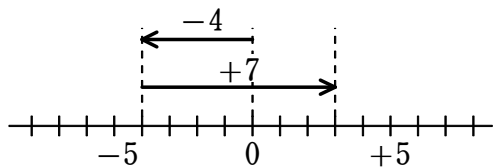
解説

(1)



上の図から $(-3) + (+2) = -1$

(2)



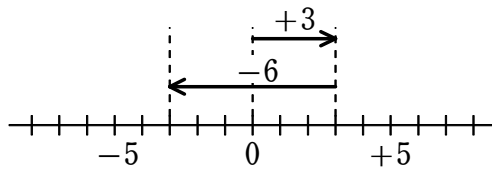
上の図から $(-4) + (+7) = +3$

裏面へ続く...

例題4 $(+)+(-)$

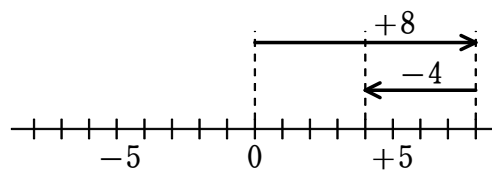
解説

(1)



上の図から $(+3)+(-6)=-3$

(2)



上の図から $(+8)+(-4)=+4$

＜わかったこと＞

★正の数どうしの和は、いつも **正の数** になる。

★負の数どうしの和は、いつも **負の数** になる。

☆符号が異なる数の和は、絶対値の **大きい** 方の符号となる。

解説

次回の学習プリント⑤につながるので、きとんとおさえておこう。